

2020 (令和二) 年7月1日 (水)



藤 棚

第381号

狭山ヶ丘学園 学校通信

<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>
<http://www.sayamagaoka-h.ed.jp/js/>

夏至も過ぎていった

校長 小川 義男

中学生諸君には分かるかなあ。地球に季節があるのは、地軸(自転軸)が公転軸に対して、約23.4度傾いているためである。

6月22日が夏至であった。それまで、昼の長さが伸びてきていたのだが、これからは夜の長さが少しずつ伸びてくることになる。暑さの中で、秋や冬が近づいてくるのである。ちょっと寂しい。

目下は、梅雨の季節である。面白いことに、北海道には梅雨が無い。

長雨を嫌う人も多いが、この雨があるから、田畑は作物を生み出すことができるし、山の木々も、緑濃く育つことができるのである。

モロッコやエジプト、タクラマカン砂漠などの風景を思い出すにつけ、梅雨は、これらの人々の羨む「恵みの雨」であるということ、深く自覚したい。

梅雨が終われば、猛暑の夏だ。人はエアコンで暑さを回避するが、江戸時代や、明治の人々は、窓を開け放ち、風鈴を吊して、吹き抜ける風に暑さを凌いだのである。団扇、縁台将棋など、江戸、明治の風俗には捨て去りがたいものがある。

上野駅近く、不忍池の向かいに「江戸下町風俗博物館」がある。四畳半の居間に二畳の台所。鯛は通路で焼く、と言った時代の風俗を実感できる。この博物館には、一度立ち寄って下さることをオススメしたい。畳の四畳半に座っていると、江戸や明治の生活が、何とも薫り高く、懐かしく感じられるのである。

網戸も無い、この時代には、蚊取り線香が必需品だったのであろう。

赤道周辺には、四季は無いに近いのかもしれない。温帯にある我が国の気候風土が何とも尊く感じられるのである。

自学自習は勝利への近道

コロナで学校へ行けぬ日が続いた。先生方も、電話による激励、ネットでの授業等、苦勞なされたようである。

諸君の中にも、学校の閉鎖があったから、学力が落ちたのでは無いか、と心配している人も少なくないだろう。

だが、「自学自習」は実力育成の絶好の機会と、受け止めた人も、少なくないのではないか。こんなことを言うと、学校不要論として悪用されかねないが、実力が蓄積されるのは、実は自学自習による方法が最も効率的なのである。

例えば、「世界史」「日本史」等に例をとろう。覚えておいてほしいのは、現代に近いカテゴリー（領域）ほど、大学入試に出題されるケースが多いのである。

その、出題の多いカテゴリーを、集中的に読むことが最も効果的である。日本史でも、世界史でも、最初から覚えようとせず、物語として読み込む。人間のたまかな歴史として、物語を読む。そういう気持ちで読むと良い。最初から、覚えようとしてはならぬ。暗記しようとすれば、せつかくの面白い人間の足取りが、つまらないものに見えてしまうのである。

四色ボールペンを使うと良い。私は、大切なところに赤線を引く。勿論、定規を使って丁寧に引くのだ。定義には青線を引く。思いついた疑問は緑で書き込む。色は諸君の好みでどれでも良い。このようにして出題可能性の高い部分を読み込んでいくのである。何回も読む。終わりには、教科書が崩れてしまって、新しい物に買い換えた人もいる。近現代が終わったら、古代から読んでみるのも、面白い。

世界史、日本史の先生方をお願いして、「高校生が覚えておくべき年表 100」のような物を、狭山ヶ丘独自に作っていただけたらと思う。例えば、明治維新を、「いっばつ無理でもやろう、明治維新（1868年）」 フランス革命は「革命は、いいなやっぱり苦しいが（1789年）」として覚える。

歴史に対する知識がある程度蓄積されると、世界史、日本史を読む面白さが強くなってくる。そのとき君らは、確実に、目的の大学に近づいているのである。

私は、社会科教師だが、専門は政治経済である。

政治経済についてもほぼ同様な方法をとることができる。

予備校の利用方法について

私は、学校以外の教育機関は、浪人したときに活用すべきだと考える。現役の諸君の志向すべきコースではない。本校のように、優れた教師が揃っている場合には、通学しながら予備校を利用すると「二足のわらじ」になってしまうからである。

尊敬する予備校の先生に聞いたが、予備校は10月から各大学の本番の問題を教材として扱うようである。（もちろんそうでないところもあるが）その先生は、「あまり早くから本番の問題を取り上げると、力がついて予備校に来なくなってしまいますからね」と笑っていた。

ことほど左様に、本番の問題は力がつくのだ。だが今は夏休み前、時間にゆとりがある。当面は教科書にしっかり取り組んで、底力を養うことだ。教科書ほど優れた参考書は世の中にはない。

人間に生まれつきの能力差はない。まだ7月だ。君らは、まだ、どこの大学にも打ち勝つことができるぞ！中学生、高校1、2年生は無限の可能性がある。頑張り抜こう！

本も読めよ。